

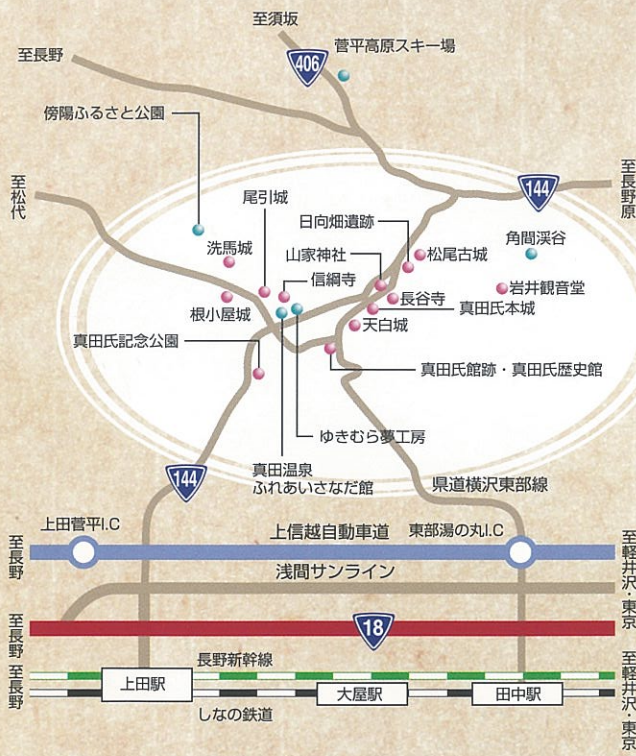


角間集落の入口左手の上段、松尾古城のふもとに、五輪塔や、宝篋印塔などが発見され、昭和46年、町の教育委員会による発掘調査の結果、五輪塔11基分、宝篋印塔6基分のほか、鉄器・土器・古銭などが発見されている。石塔群の形などから室町時代から戦国時代(今から約700年前~500年前)頃の遺跡とみられている。遺跡の近くには、現在安智羅明神や、阿弥陀堂などがあり、真田氏に関わりのある言い伝えが、いくつか残されているが、真田幸隆以前の先祖か、真田氏に關係する、有力な一族の墓ではないかと見られている。



角間渓谷への入口。角間集落の左手、松尾城山の中腹にこの城跡がある。前方は角間川が流れ、急な岩山にあるこの城は、規模が小さいが、展望はきわめて良く、上州街道筋や、角間峠を越えて鹿沢方面の往来を見張ることもできる。

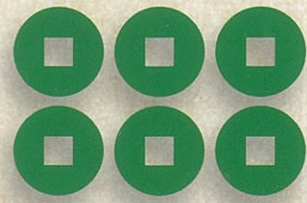
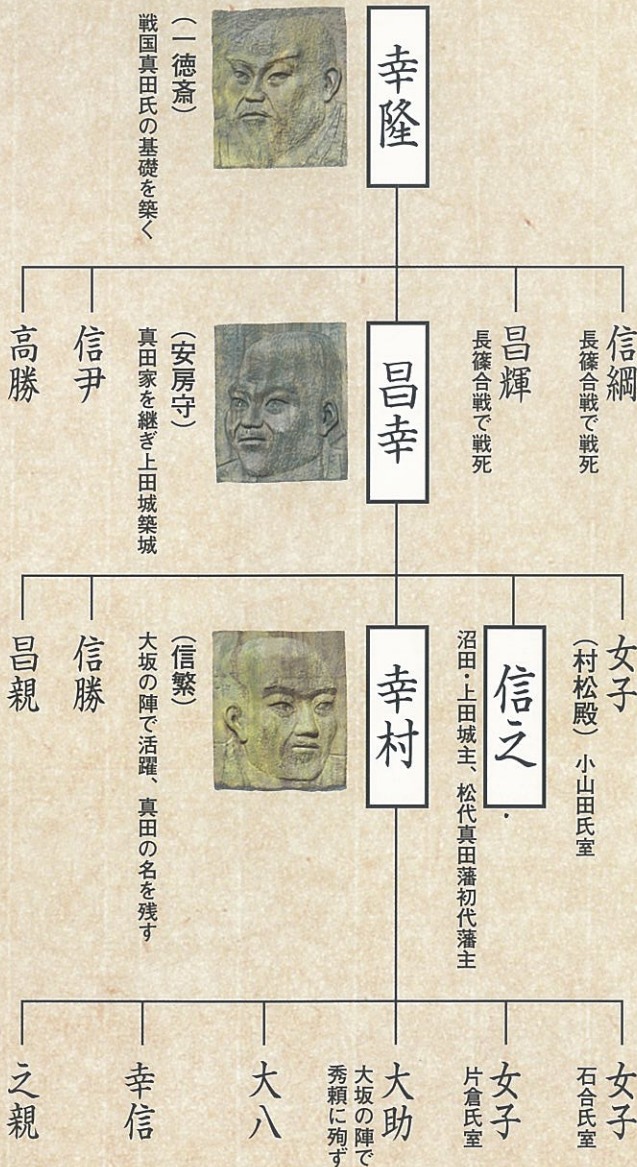
真田案内地図



平成22年度 上田市わがまち魅力アップ応援事業

作成/上田市真田町 真田自治会
編集/真田魅力アップ事業実行委員会
印刷/株式会社アオヤギ印刷
上田市住吉558-11

真田氏略系図



再発見 真田 ぶら 史蹟あんない



真田幸隆公



真田昌幸公



真田幸村公



信仰の山「四阿山」のふもと
ここに生きた先人たちの足あと



山家神社拝殿

- 1 山家神社拝殿
- 2 山家神社鳥居

およそ1,100年前、「延喜式神名帳」という朝廷の台帳に載せられている格式のある古い神社。この地域の産土神(守り神)であり、また四阿山を源とする神川沿岸に住む人たちの「水分の神」としても、古くから信仰を集めてきた。上田城の鬼門除けの神社として、真田幸隆の時代から上田藩主は代々このお宮を大切に守ってきた。鎌倉時代以前に加賀の国(石川県)から白山信仰がたつわり、明治になるまで、「白山宮」「白山さま」と云われてきた。奥社は四阿山山頂にある。



山家神社鳥居



真田の集落から望む真田本城跡

3 真田本城跡

真田氏の初期の頃の城とされている山城である。真田の集落から小別当の沢を登って城に通ずる古い道も残されており、城からは眼下に上州街道や、松代街道も見渡せ、南西方面には原の郷の「お屋敷」が近くにあり、その先には戸石・米山城、さらには上田・佐久方面まで展望できる。城の造りから、かなり古い時代の城とみられ、鎌倉時代のものではないかという説もある。

東御市方面へ
お屋敷歴史館
真田氏歴史館
本原方面へ
上田へ
石舟へ
戸沢・横尾へ



4 長谷寺 5 真田公墓所 6 石の山門
天文16年(1547年)真田幸隆が、上州(群馬県)安中の長源寺から、伝為見遊和尚を招き開山した。昌幸の時代に整備拡張されたが、度重なる火災や水害に遭い、特に明治23年の火災で全山焼失し、唯一残された石の山門はこの寺のシンボル。宗派は曹洞宗であり、旧道から登る参道には樹形がある。4月下旬頃に咲く枝垂れ桜は見応えがあり、夜のライトアップもまた幽玄で趣がある。裏山の墓地にある。「幸隆公夫妻・昌幸公の墓所」は上田市指定文化財。

7 岩井観音堂
約2キロ
4 長谷寺
5 真田公墓所
7 岩井観音堂洞窟と光明寺建立碑



長谷寺の奥、林道を約2kmほど入った所に洞窟があり、弘長3年(1263年)「光明寺建立の碑」と刻まれた石碑が残されている。この石碑には十一面観音をあらわす梵字のマークがある。十一面観音は白山権現の本地仏といわれ、鎌倉時代に白山信仰がこの地にまで広がっていたとみられる貴重な石碑とされ、昭和58年に真田町指定文化財に指定されている。

15 松尾古城
14 日向畑遺跡
13 河原氏墓所・屋敷跡
12 甲石
11 上州街道石碑群
10 権現淵
9 白山宮(権現)

9 白山宮(権現)



剣岩のふもと、「権現岩」と呼ばれる岩の岩陰に「白山様」と呼ばれた小さな石の祠がある。このお宮は、下の「窪堰」の取り入れ口を守る神様とか、女性の神様ともいわれている。安永2年(1773年)の銘あり。

※権現/仏が民衆を救うために、神となってこの世に現れた仮の姿。

●地蔵堂

字旗見原

真田七つ石の一つ。ここからは北の松尾古城や、菅平方面、南西は真田本城や、戸石城まで望める展望の良い地である。

山家神社の参道の左手、現在平和公園になっている場所に「白山寺」という天台宗の寺があった。明治維新の神仏分離令により廃寺になり、本尊の十一面観音は傍陽の実相院へ移されている。

ウォーキング出発地(長村役場跡)

群馬・菅平へ

道中坂

旗見石

山家の真田氏館跡

山家神社

白山寺跡

番小屋跡

権現淵

白山宮

愛宕神社

字山家

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

道中坂

字上平

真田公民館

上州街道石碑群

石の道標

下小西橋

分かさり

うえだまつしろ

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

山家の真田氏館跡

大日堂跡

番小屋跡

白山橋

窪堰

稲荷神社

剣岩

白山宮

名族「真田氏」を生んだ「山家の郷」を歩いてみよう。



13 河原氏墓所・屋敷跡
地元で天神沖といわれているこの水田地帯の一角に、五輪塔がいくつか集まっている場所がある。「河原氏の墓」といわれている。河原隆正は真田幸隆の重臣の一人で、隆正の妹は幸隆の妻である。この地域一帯は河原氏の所有地で、近くにある天神宮は河原家の屋敷神ともいわれている。

小学校の校庭の南に「中森」という森があり、諏訪明神が祀られていたという。ここには大きなケヤキの樹があり、明治になって切り倒されたが、切り株が8畳もあり、この樹の枝で臼が3つとれたという。

中森諏訪明神跡
大ケヤキ跡
長小学校
字甲石

JA真田支所
真田郵便局
天神宮

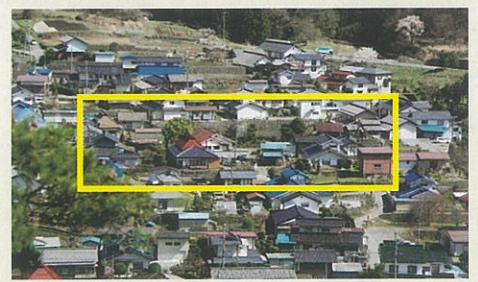
12 甲石
真田七つ石を代表する石。この奥の小別当の沢から流されてきたとみられ、周囲約13.5m、高さ約2mの大きい石である。かつてこの地は甲石郷、甲石村ともよばれた時代があり、集落があったのではないかという言い伝えもある。



11 上州街道石碑群
この道はかつて、上田から上州に通ずる重要な街道で、江戸時代の古い絵図には、ここに「御制札場」(揭示場)もあり、「泉堂」という立派な石碑や、庚申塔などいくつかの石碑が集まっている。ここを通る人たちの休憩の場所でもあったと思われる。



10 権現淵
白山橋の上流約100mの場所、剣岩の岩盤が神川に落ち込み、対岸の岩との間に淵(川の深み)ができている。ここは古くから窪堰用水の取り入れ口となっており、天神沖の田んぼに水をひく大事な場所でもある。また、ここは昔から「ごんげん」ともよばれ、子供の頃の格好の水遊び(水泳)の場所でもあった。



8 山家の真田氏館跡
真田の旧集落のほぼ中央。現在の真田公民館のすぐ近くに、南北約100m、東西約60m四方の平らな土地がある。南西方向は石垣が積まれており、高いところは約3mほどあり、傾斜地にある真田の集落としては、かなり広くまとまった平らな土地である。ここには現在、数戸の民家があるが、岩井堂川から引き込まれた用水路も通り、お稲荷さんの祠や、矢竹の植え込みなどが残っている。江戸時代につくられた「真田村絵図」には、「上町・中町」「番小屋」「立つ道」「虎口」などの地名もみられ、かなり有力な一族が住んでいたとされ、真田幸隆の時代、「原の郷」(本原)の屋敷に移る前、ここに屋敷をかまえて一族が住んでいたのではないかとされている。